



週に1度は自宅でパーティ。
 広い廊下や庭を
 ダイニングスペースに変える演出も

Parisの企業家



ソフィー・ドゥーザル＝
 サルコジさん

Sophie Douzal-Sarcozy

●PR会社社長

Profile

ブルゴーニュ地方に生まれる。父親はワイン関係の実業家で、幼い頃からスイスやパリに寄宿学校で学び、17歳でパリのPR学校へ。25歳で独立、コンサルタントの夫と2人の子供の4人で暮らしている。

空間に趣を
 プラスするのは
 両家に伝わる
 古い品々



↑玄間からサロンへと続く
 広い廊下。石の仏像や壺など
 インパクトのあるアイテムで
 オリエンタルな空間を演出。
 ←大サロンの一角には、いつでも
 人を招けるようにバーコーナーが。
 ↓大サロンの横にある
 書斎スペース。ここには
 地球儀などサイエンスなオブジェが。
 壁に掛かっているのは
 シャルロット・ペリアンの作品。

場所は高級住宅街として名高いヌ
 イー・シュル・セヌ、庭に囲ま
 れた400㎡のオスマン様式の建物
 が住まい。「4年前に結婚し、この
 家に越してきました。温かい雰囲気
 を出したくて、テマカラーを赤
 に。コーディネートを手がけたの
 は、インテリアショップが軒を連ね
 るパリ7区にショップを持つ友人の
 インテリアデザイナー。それでも、
 住む人の個性が伝わる部屋になっ
 ている理由のひとつには、「結婚した
 ときに互いがもってきた、両方の家
 に伝わるものを飾っているからだ
 と思います」とソフィーさん。絵や彫刻、
 家系図や古いソファなど、二人の生
 い立ちが伝わるものが溢れていま
 す。この家には友人だけでなく、仕
 事の関係者も集います。「週に一度
 は自宅でパーティを開きます。何度
 かいらしたゲストに同じ雰囲気を与
 えないよう廊下や庭でもてなすこと
 も」。自宅に招くとはいえ社交の場
 でもあるため、意外性を演出して盛
 り上げます。仕事柄、そのアイデア
 を練るのも楽しんでいるそうです。





INTERIOR Special

赤と青が家全体のテーマカラー。
遊び心はエスニック調の小物で

↑古い中国の絵画を生かそうと、ダイニングルームも赤をテーマカラーに。照明はキャンドルのみ。
→メインサロン。パリに画廊で求めた攝攝のシャンデリアやコクトー、ピカソの作品、コルビュジエのイス、古いひじ掛けイスなどいろいろなものがミックスされている。
↓エスニックな柄と色でまとめたベッドルーム。



↑本棚のあるサロンは、メインのサロンに比べてくつろいだ雰囲気。ここはどちらかといえば、プライベートなスペースで、家人のリラゼーションスペース。
→赤とこげ色のタイルでコーディネートしたバスルームもどこかオリエンタルなムードが漂う。



プライベート空間、
子供部屋は
くつろぎと心地よさ
重視したつくり

↑庭はパーティ会場にもなるけれど、子供の遊び場でも。3歳の息子は今、庭遊びが大好きなのだそう。エプロンとバケツをもって出発！
→2歳の娘の部屋はキュート。

